

「・・・への準備」

2022年4月 北嶋愛季

用意するもの：

1. 色の違う7枚のカード

それぞれに紫：全託 群青（藍）：遠くから眺める 水色：手放す 緑：愛 黄：尊敬 橙：安心 赤：懺悔と書く。大きさ、形は自由だが、観客から見える大きさであればなお良い。

2. 思い出の品

奏者の個人的な思い出の品を1つ用意する。写真、もの、ビデオ、音源、何でも良い。過去のもであればどのくらい前のものでも構わないが、自分が「懐かしい」と思うものであり、あまりネガティブな感情を呼び覚まさないものであること。

譜面台に乗る大きさのものが好ましい。乗らない場合は、譜面台の隣に椅子などを置き、観客から見えるようにその上に置く。人でも構わないが、演奏中ずっと譜面台横の椅子に黙って座っていること。

ビデオや音源の場合、ループ再生するようにしておくこと。

リハーサルは行ってもかまわないが、リハーサルと本番では品を変えること。

奏法、ルール：

最小3人から最大7人で演奏される。奏者の楽器は、奏者自身が自然に無理なく音が出せると感じる楽器であり、立って演奏、持って移動出来るもの、楽器本体から音が出るものであること。声でも良い。電子楽器でも良いが、スピーカーやアンプが楽器本体と別の場所にあるなどして、本体とは別の場所から音が出る楽器ではないこと。持ち運び、移動がスムーズにいけば、ひとり複数の楽器を持ってもよい。

奏者は観客を円を描いて囲むようにそれぞれ離れて立つ。はじめにじゃんけんをして、勝った順から1枚ずつカードを取り、時計でいう12時場所を1番として、勝った順から時計回りに初めの立ち位置に立つ。奏者は観客に背を向けて立ち、自分の思い出の品、カードを譜面台の上に置く。

奏者の準備が出来たら、演奏開始の合図は設けず即興演奏をする。「思い出の品」の音源、ビデオをスタートして始めても良いし、楽器演奏から始めても良い。ただし個々の場所で必ず1回は再生すること。

その後、自分のタイミングで、自分と楽器を持って時計回りに、隣の奏者のほうへ歩いて移動する。演奏しながら移動しても、演奏をやめて移動しても良い。

他の奏者が自分のところに来たら、その奏者も時計回りに移動し、そして順番に全員の奏者の場所が変わる。新しい場所で同じように即興演奏をし、移動を繰り返す。

そして最終的に自分の場所にまた戻ってきたら、再度、即興演奏をする。「思い出の品」が音源、ビデオの場合、ここでも必ず一度は再生する事。奏者の誰かが演奏、音源やビデオを停止して無音になったら、他の奏者も各々のタイミングで無音になり、演奏終了となる。

思い出の品の音源、ビデオは、途中で止めても、再生しても良い。音源、ビデオを一つの素材として扱い、それで即興演奏をして、楽器を演奏しない場面があっても良い。ただし、目の前にある「思い出の品」「カード」を常に意識して演奏する事。

観客は、演奏中、自由に移動してよい。